

【実施結果報告書】

第2回“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅



亀岡市「世界連邦・非核平和都市」宣言

世界の恒久平和は、人類共通の切なる願いです。

核兵器は、その願いを妨げる脅威でしかありません。

私たちが求めるのは、あらゆるいのちの営みを一瞬のうちに奪ってしまう核兵器の廃絶であり、その存在を許さない世界の実現です。

私たちは、世界連邦の意志を受け継ぎ、「非核三原則」の堅持を訴え続けます。それらは、人と人との絆を深め、いのちの尊厳を自覚して、自然と人間が共生する世界を築いていくための普遍の原理であるからです。

私たちは、ふるさとを愛し、人を愛し、戦争のない平和で美しい地球を子どもたちに伝えるため、願いを同じくする世界の人びとと共に前進することを誓い、ここに、亀岡市を「世界連邦・非核平和都市」とすることを宣言します。

平成22年 8月 7日

亀 岡 市

目 次

I “ヒロシマ” に学ぶ平和の旅について P. 1

II 参加者名簿 P. 2

III 事業報告 P. 3 ~ P. 11

IV 旅の総括 P. 12

参加者募集、平和の折鶴募集資料

“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅について

亀岡市では、平成15年から小学生親子を対象に、被爆地広島を訪れ、平和学習および親子の絆を深めていただくことを目的とした「“ヒロシマ”に学ぶ親子平和の旅」事業を平成27年までの間、13回にわたり実施してきました。そして、平成28年8月21日には、過去13回の旅の総括の場として「平和学習講演会」を開催し、平和を希求し、“ヒロシマ”に学ぶ当事業の意義を再認識する一方で、新たな事業展開へと想いをつなぎ、当事業に幕を下ろしました。

そして、平成29年から世界連邦・非核平和都市宣言を掲げる亀岡市では、過去の事業成果を引き継ぎ、新たな一步を踏み出す事業として、市内中学生を対象とした“ヒロシマ”を通じた平和学習事業、「“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅」を実施し、今年度は25名の市内中学生代表が平和学習として参加しています。

事業の目的

- ①人類史上初めての原爆被災地であり、戦争の恐ろしさを象徴する“ヒロシマ”、この歴史を風化させずに次代につないでゆく。
- ②市内中学生が実際に現地を訪れ、様々な資料、史跡を自身の目で確認し、さらに、被爆体験講話等を通じ、被爆された方からの当時の詳細な情報や想いに触れ、戦争や平和のイメージをより身近に明確なものとして実感、学習する。
- ③参加した生徒が事業を通じて学んだ情報や感じた想いを周囲へと伝えていただく。

事業内容(第2回)

○事前学習説明会（被爆体験記朗読会）

日時：平成30年7月30日（月）午後2時～午後3時30分

場所：亀岡市役所 市民ホール

内容：国立広島原爆死没者追悼平和祈念館登録の朗読ボランティア2名による被爆体験記の朗読

○平和の旅

日時：平成30年8月22日（水）午前7時～午後7時

場所：広島平和記念公園、平和記念資料館

内容

（旅の当日）

- ・ 被爆体験講話の受講
- ・ 本川小学校平和資料館見学（ボランティアガイド）
- ・ 平和記念資料館の見学
- ・ 平和記念公園内、献花及び折鶴の奉納

（旅の実施後）

- ・ 感想文の提出 → 当報告書の作成
- ・ 各学校での報告など

II 参加者名簿

学校名	学 年	氏 名
亀岡中学校	2 年	鷲田康太
	1 年	浅田 董
	1 年	永田桔平
	1 年	新美花菜
別院中学校	2 年	磯部紗希
	2 年	稻原来夢
	2 年	糸井万琴
南桑中学校	3 年	山上舞子
	3 年	宗川さくら
	2 年	太田あびる
	2 年	有馬颯音
育親中学校	2 年	山中絵里菜
東輝中学校	3 年	園山来海
	1 年	井上博之
	1 年	永瀬璃虎
	1 年	北村快斗
大成中学校	2 年	森田真菜
	2 年	並河華凜
	1 年	中村壮太
	1 年	田中倫太郎
詳徳中学校	2 年	栗林美妃
	1 年	岸裏萌冬
	1 年	竹上寧音
亀岡川東学園	9 年(3 年)	中川竣介
	8 年(2 年)	野々村実羽

引率者

秘書広報課 小林秀範 服部理恵子 橋本大佑

学校教育課 岩崎 晃

南桑中学校 石田さゆり

Ⅲ 事業報告

【事前学習・説明会（被爆体験記朗読会）】

日時：平成30年7月30日（月）午後2時～午後3時30分

場所：亀岡市役所 市民ホール



広島市内においての平和学習に先立ち、事前学習・説明会を実施。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館から朗読ボランティア2名（小林真紀さん、藤越はる美さん）を派遣いただき、原爆被爆者の方々が綴られた被爆体験記の朗読を亀岡市役所市民ホールにて聴講しました。

朗読者から目を閉じて聴くことを促された参加中学生は、被爆者本人の強い感情を代弁した臨場感溢れる朗読に引き込まれ、原爆投下直後の悲惨な状況、失われゆく命を前にした絶望感などを自身のことのように追体験しました。

《折鶴の伝達》

本年も昨年に引き続き、市民の皆様から広島へ奉納する折鶴を募集し、5万羽を超える折鶴が集まりました。

8月7日 平和台公園平和塔前にて举行了亀岡市平和祈念式典において、平和の旅参加者の代表3名に桂川市長から激励の言葉とともに伝達されました。



【平和の旅（広島での平和学習）】

日時：平成30年8月22日（水）午前7時～午後7時

行 程

7時10分 亀岡駅集合

（移動：JR山陰線、新幹線、広島市電）

10時37分 原爆ドーム前駅着

※移動の間、原爆ドームを見学

11時00分 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

被爆体験講話の聴講

12時00分

（移動：徒歩 昼食会場へ）

12時10分

昼 食（広島風お好み焼き）

13時10分

（移動：徒歩 本川小学校平和資料館）

13時20分 広島市立本川小学校平和資料館

本川小学校平和資料館見学（ボランティアガイドによる説明）

14時20分

（移動：徒歩 平和記念資料館）

14時30分 広島平和記念資料館東館着

東館自由見学

15時10分 東館ロビー集合

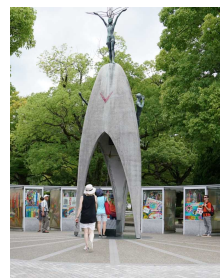
15時15分 原爆死没者慰霊碑

慰霊碑【献花】⇒（移動）原爆の子の像【折鶴奉納】⇒（移動）集合写真

15時54分 原爆ドーム前駅発（広島電鉄6号線 広島駅行き）

16時57分 広島駅発（新幹線のぞみ46号 東京行き）

19時12分 亀岡駅着 解散



【 旅の記録 】

当項目については、旅の中で撮影した写真記録、参加した生徒の皆さんの感想文（抜粋）をもとに構成しています。なお、感想文の抜粋については、構成の都合上、一部文章の要約等を行っています。



（感想文より「旅のはじまり、参加について」）

- ・この度へ参加した理由は、今まで少ししか知らなかったヒロシマのこと、原爆のことをもっと知りたいと思ったからです。学校や母から聞く話では細かなところまでは詳しく教わっていないから、この旅でさらに学び、二度と悲惨な戦争が起きないようにしたいからです。

《原爆ドームの見学》



（感想文より）

- ・原爆ドームを見たとき、言葉が出なかった。あまりにも残酷だった。
- ・痛々しい建物でした。まるで、その日あった出来事を訴えるような建物でした。
- ・原爆ドームを訪れるのは2度目でしたが、初めて訪れた時と同じく、その周りは、そこだけ時間が止まっていました。
- ・広島に着いた時は、本当にここに原子爆弾が投下されたのかと思いました。原爆ドームを見た私は衝撃を受けました。残っていたのは鉄骨とがれき。原子爆弾の恐ろしさが見ただけでしつかりと感じられました。

《被爆体験講話の聴講》



竹岡智佐子さん

被爆時の状況

「17歳のとき、爆心地から3km離れた
自宅で、家を出ようとしたときに被爆」

(感想文より)

- 竹岡さんからいただいた言葉「あなた達の心に平和の種を植えました」を胸に、その種を枯らせるのではなく、芽吹かせ大きな平和の花を咲かせ、たくさんの人に平和を伝えていける人になりたいと思いました。
- 話を聞いて、平和にしようとか口だけではダメで、どう行動するか、できるかということが大事だとわかりました。
- 今では、当たり前のように私たちは生きているけど、昔は生きるのに一生懸命だったと聞き、命ということについて考えました。
- お母さんや友達が変わり果てた姿になってしまったのを見るのは、本当に辛いことだと思いました。
- 話を聞いている途中、体中に鳥肌がたちました。それは、「近所の人達の体にガラスの破片や釘が刺さっていた」と言っておられた時です。
- 平和に過ごすためにいくつかのことを教えてもらいました。「みんなと仲良くする」「親を尊敬する」「平和だから教えてもらえる」などです。当たり前のことがありがたいことだと思いはられました。



《広島市立本川小学校 平和資料館見学》



(感想文より)

- 資料館には焼けた服や帽子、ボロボロになったかわらなど、今私たちが使っているような物が展示されていました。それらを見て、普通の暮らしができなくなったのだと感じ、本当に怖くなりました。
- お話をしてもらった方が言っていた「亡くなった子供達がいったい何をしたのか」という言葉。何の罪もないのに死んでいく。本当におかしいと思った。
- 自分達よりも小さな子供がたくさん被害にあっています。戦争を昔のこと、人ごとと思っていた自分にとっても腹が立ちました。
- 当時の子供達は、普段通りに登校し、友達としゃべったり、遊んだり。そんな時、突然襲ってくる爆風と熱線。想像しただけで怖くなり、胸が苦しくなりました。
- 窓ガラスが吹き飛んでいて、爆弾の恐ろしさを感じました。

《平和記念資料館（東館）館内見学》



(感想文より)

- ・資料館には、当時の人びとの苦しみや当時の状態が生々しい写真と映像が展示され、目を見はりました。
- ・一瞬にして街がなくなっていく模型を見て、人の命はこんな一瞬の爆発で消え、その後も長年苦しまされることを知りました。
- ・資料館で見た遺品は苦しみや悲しみがよく伝わってきました。8時15分で止まった時計。ひどく黒こげになった三輪車、お弁当箱。学生服。あらためて思うことは、絶対に戦争はしてはいけないということ。
- ・資料館の遺品が平和を訴えていました。核兵器がどれほど危険なのか、どのような被害があつて、どう復興していったのかをしっかりと学びました。
- ・資料を見て、たくさんの未来ある人々、罪のない人々に無差別に原爆が落とされ、生き残った人も心と体に大きな痛手を負い、多くの被爆者が今なお苦しんでおられることを知りました。
- ・被爆された方が身に着けていた衣服は、ぼろぼろに破れ、赤いような茶色いような血のあとがついていました。そのままの状態に残っているので、写真を見るよりも、当時の状況がよく伝わってきました。



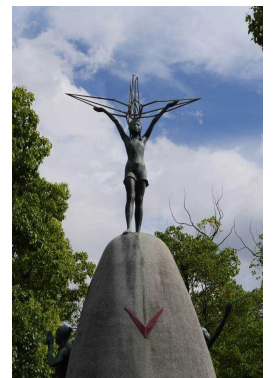
《原爆死没者慰霊碑 献花》



(感想文より)

- ・慰霊碑には、私達と同じように犠牲者を追悼する外国人の姿があり、平和への願いは同じだと感じた。この人達が帰国して、自分達が体感したことを伝えてほしいと思った。
- ・原爆の子の像に行って、たくさん奉納された折鶴を見て、こんなにたくさんの方が平和を願っているのだと温かい気持ちになった。
- ・折鶴を奉納するとき、世界が平和であることをお願いしました。

《原爆の子の像 折鶴奉納》



(感想文より「旅を終えて」)

- ・今回の平和の旅で、戦争が起これば今の普通の生活ができなくなってしまう。ごはんを食べる、学校へ行く、部活をする、友達と話す、音楽を聴く、大好きなダンスをする、家族と過ごすなど、普通の生活に感謝し、この思いを周りの人に伝えていきたい。
- ・失った命や夢、希望はかえってこない。自分達にできることは、このことを語りつぐことだけ。少しでも多くの人が広島について学び、「戦争の恐ろしさ」を教えてあげないといけない。
- ・今回の旅の内容を夏休みの宿題の新聞に書き、クラスの色々な人に“いいね”をもらうことができました。
- ・竹岡さんのお話のとおり、世界、日本を平和にするためには、どう行動できるかを考え、今日から生きていきたいと思いました。
- ・この旅を通して、黙とうすることの意味を理解し、これからは、原爆が落とされた日は黙とうをしようと決めました。
- ・「平和」という言葉のすべての意味は分かりませんが、僕達の思う「平和」と被爆者の人達が言われる「平和」の意味は違う気がしました。僕達は原爆や戦争を経験していないから簡単に平和だと言えるのだと感じました。今は戦争は無くなり、街も戻ってきたかもしれませんが、原爆が落ちた事実、そして家族や友人を失った悲しみは一生消えないと思います。戦争を起こさないためにも、学校での生活などもがんばりたいと思います。
- ・今の日本は平和だけど、世界中ではまだまだ昔の日本のように、今も戦争で苦しみ死んでいる人がいます。唯一の被爆国の日本がそれをやめさせなければならぬと思います。
- ・資料館や本川小学校で見た光景は、僕の頭に強い印象を与えてくれました。あの光景を僕は忘れません。日本に二度も落とされた原子爆弾を僕達は忘れてはいけません。僕達が語り継ぎ、平和な世界をつくれるよう生きていきたいです。
- ・平和都市宣言をした亀岡で生まれ育った者として、核兵器の無い世の中、世界平和を心から願います。
- ・これまで軽々しく「戦争」という言葉を口にしてきたけど、言葉の重さをとても感じました。何も罪の無い人達が一つの原子爆弾で命が奪われるなんてことを二度としてはいけないと思いました。
- ・平和への道は、仲良くすることだと思いました。家族や友達を大切にすることが一番大事だと改めて感じました。これからも仲間を大切に平和な世の中へとしていきたいです。
- ・この旅では、広島を訪れ、過去を直視し、自らが体感することで平和について深く考えることができた。「平和への願い」を次世代につなげることの大切さを知る貴重な旅になった。

IV 旅の総括

亀岡市長 桂川 孝裕

広島・長崎の被爆の悲劇、そして、終戦から73年の歳月が流れました。

亀岡市においては、去る平成30年8月22日、昨年度に引き続き、市内中学生代表25名参加のもと、被爆地広島における平和学習の旅を実施いたしました。

また、今年度は、8月22日の当日に先駆け、7月30日に事前学習会「被爆体験記朗読会」を開催し、生徒の皆さんには、次なる旅への決意を新たに、学習意欲を高めていただきました。

学習の旅当日、広島に降りたった皆さんは、まずはじめに、被爆の象徴である原爆ドームの存在感を目の当たりにします。驚きを隠せない様子が報告書から伝わってまいります。

今を生きる我々には原爆のすさまじい威力、その恐怖を明確に想像することは難しいですが、実際現地を訪れ、その威力の片鱗を映す遺構に触れることで、生徒達はそれぞれに原爆の恐ろしさを感じとってくれました。

さらに、今回は新たに本川小学校平和資料館を学習先として組み込みました。

生徒達の日常に近いシチュエーションでの被爆状況を見学する中で、生徒達は、過去の史実を身近な問題として感じてくれた様子が感想文の内容からも読み取れます。

今現在、平和な日常を享受する我々は、この日常の裏側に、先の戦争で犠牲となられた方々の無念、遺族の皆様の哀しみ、そして、戦後混沌とした時代を生き抜いて来られた数多の先人の御労苦があることを決して忘れてはならず、同じ悲劇が二度と繰り返されないよう、平和への想いを確実に次代へと伝えゆかなければなりません。

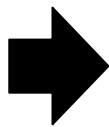
そのためには、先の戦争を自身の問題として身近に捉え、その恐ろしさをしっかりと認識することが必要です。この「“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅」の中で、次代を担う中学生にそうした認識を促す機会を提供していきたいと思っております。

昨年度の参加者23名と合わせて計48名。

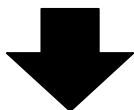
市内中学生を代表し学習いただいた成果、そして、一人の人間として感じていただいた平和への想いを伝え広げていただきますことを期待いたしますとともに、こうした一つひとつの積み重ねが、世界恒久平和の一助とならんことを切に願います。

◆参加者募集に係る資料◆

・市内各中学校に
参加者募集チラシの配布



・市広報誌「キラリかめおかおしらせ」
5月1日号にて募集記事を掲載



平成30年(2018年)5月1日号

亀岡市男女共同参画推進事業 「ゆう・あいフォーラム2018」 ワークショップ募集

応募資格 男女共同参画社会推進の趣旨に沿った企画を自主的に運営・実施できる、市内在住、在勤、または在学の人で構成するグループ・団体・事業所(性別・年齢不問)

内容 11月18日(日)開催の「ゆう・あいフォーラム2018」で男女共同参画社会の実現を目指すメッセージ性を持ち、来場者参加型で学びや気づきが得られる企画

※特定の宗教や政治活動に関するもの、営利目的であるもの、その他「ゆう・あいフォーラム」主催者が不適当であると認めるものは除きます。

募集企画数 10企画程度(要申し込み)
その他 ワークショップについて

のプレゼンテーション(説明発表会)を7月下旬に実施しますので、応募したグループ・団体・事業所は必ず出席してください(詳細は後日連絡します)。▶会場および会場備品費用は主催者で負担しますが、その他の実施費用は応募者の負担になります。▶ワークショップ開催場所、時間帯を調整する場合がありますので、ご了承ください。

申し込み 固 6月15日(金)<必着>までに、所定の応募用紙に必要事項を記入の上、郵送、FAX、電子メールまたは持参で、次へ〒621-8501(住所不要)ゆう・あいフォーラム2018企画運営委員会事務局(市役所5階人権啓発課内)
TEL25-5075、FAX22-6372
電子メール

社交

と
ま
とこ
内
容
の
シ

夏休みに平和を学ぶ生徒募集! 第2回「ヒロシマ」に学ぶ平和の旅

人類史上初めての原爆被災地である広島。亀岡市では、平和について考える機会として中学生を対象に第2回「ヒロシマ」に学ぶ平和の旅を実施します。

- 実施日時 平成30年 8月22日(水) 午前7時頃～午後7時頃
- 旅の目的地(予定) 広島平和記念公園及び周辺
- 主なスケジュール(予定) 朝 7時10分亀岡駅集合 ⇒(JR)⇒京都駅⇒(新幹線)⇒広島駅⇒(路面電車)⇒広島平和記念資料館(被爆体験講話)⇒昼食(広島流お好み焼き)⇒広島平和記念資料館等見学⇒(行きと同じ経路にて帰路へ)⇒夜 19時頃 亀岡駅解散
- 参加募集人数 25名(各校2～3名程度)
※応募多数の場合は、抽選とします。
- 参加負担金 無料(京都・亀岡ふるさと寄附金を活用し、公費で負担します)
- その他 ・参加者には後日、感想文を提出していただく予定です。
・平和の旅実施後に、参加者の感想文等をまとめた報告書を市で作成し各学校等に配布する予定です。
・事業中、写真・動画を撮影し、平和の旅実施報告書及び市広報並びに平和関連事業に活用します。
- 事前学習説明会 参加決定者を対象に旅の実施にあたり事前の学習、交流、説明の場として開催します。
日時: 平成30年7月30日(月) 午後2時～午後3時30分 【場所】 亀岡市役所1階市民ホール
- 応募方法: 下記参加申込書に必要事項を記入の上、担任の先生にお渡しください。
- 応募〆切: 5月31日(木)
- 主催・お問い合わせ先: 〒621-8501 亀岡市安町野々々8番地 亀岡市役所5階 秘書広報課 秘書係 TEL25-5001 (切り取り)

第2回「ヒロシマ」に学ぶ平和の旅参加申込書

学校名	中学校	クラス	年	組
ふりがな		男	〒	
氏名		女		
ふりがな			TEL	
保護者氏名				
備考欄				

定員 20人(男女各10人先着順)
参加費 無料
申し込み 固 5月10日(木)から 社交ダンスサークル「もみの木会」担当: 瀬戸 TEL23-6823 土佐 TEL23-4331 (市民力推進課)

平和推進事業「第2回「ヒロシマ」に学ぶ平和の旅」参加者を募集

世界連邦・非核平和都市宣言を掲げる亀岡市では、平和への思いを次代へつなぐとともに、広く意識の啓発を図ることを目的に、市内中学生を対象とした広島への平和学習の旅を次のとおり実施します。

実施内容 ①「ヒロシマ」に学ぶ平和の旅(広島での平和学習)②旅の事前学習・説明会(参加決定者への事前説明)

実施日時 ①8月22日(水)午前7時ごろ～7時ごろ(予定)②7月30日(月)午後2時～3時30分

実施場所 ①広島市内 ②亀岡市役所1階市民ホール

旅の主なスケジュール(予定) 午前7時ごろ JR 亀岡駅集合・出発⇒(JR)⇒京都駅⇒(新幹線)⇒広島駅⇒(路面電車)⇒国立広島原爆死没者追悼平和祈念館(被爆体験講話)⇒昼食⇒広島平和記念資料館ほか見学⇒(路面電車)⇒広島駅⇒(行きと同じ)⇒午後7時ごろ JR 亀岡駅到着・解散

参加対象者 市内在住中学生(市外中学校へ通う生徒も含む)

募集人数 25人(各校2～3人、応募多数の場合は抽選)

参加負担金<交通費、昼食代など> 無料(京都・亀岡ふるさと力向上寄附金を活用し、公費負担します)

※参加者には、後日、感想文(原稿用紙1～2枚程度)を提出してまいります。
※事業の中で撮影した写真、映像を平和関連事業などに使用します。

応募方法 5月31日(木)までに市内中学校の生徒については、各学校配布の「募集チラシ兼参加申込書」に必要事項を記入の上、担任の先生にお渡しください。その他の市内中学生については、任意の様式に(学校名、学年、氏名〔ふりがな〕、保護者氏名〔ふりがな〕、住所、連絡先)を記載の上、持参、FAX、または電子メールにて、次のあて先に提出してください。

☆☆平和の折鶴募集☆☆

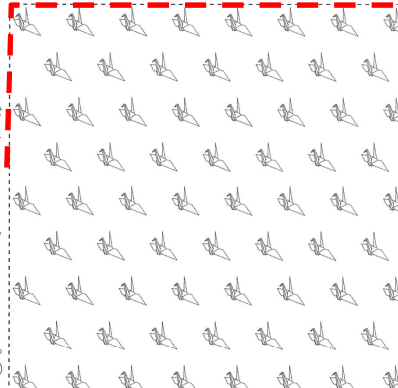
「ヒロシマ」に学ぶ平和の旅において広島平和記念公園で中学生が奉納する折鶴を募集します。平和への願いを込めた折鶴で皆さんも事業に参加してみませんか。右側の枠囲みの部分を切り取っていただき、折鶴を作成し、7月20日までに、次のあて先までお届ください(他の紙でも可、ただし、7.5cm×7.5cm使用)。

あて先 固 〒621-8501(住所不要) 亀岡市秘書広報課秘書係
TEL25-5001、FAX25-0600

※平和の折鶴は、市役所1階市民情報コーナーに設置の折鶴受付BOXでも受け付けます。(秘書広報課)



(キトリセン)



亀岡市の広報紙・ホームページへの広告掲載を募集しています!!

◆平和の折鶴市民参加に係る資料◆

市広報誌「キラリかめおかおしらせ」5月1日号にて、広く市民から平和の折鶴を募集しました。

結果：**5万羽** を超える折鶴が集まりました。これら折鶴は、平和の旅の中、参加生徒一人ひとりから奉納していただきました。

平成30年（2018年）5月1日号（5月1日発行）No.839（11）

亀岡市男女共同参画推進事業 「ゆう・あいフォーラム 2018」 ワークショップ募集

応募資格 男女共同参画社会推進の趣旨に沿った企画を自主的に運営・実施できる、市内在住、在勤、または在学の人で構成するグループ・団体・事業所（性別・年齢不問）

内容 11月18日（日）開催の「ゆう・あいフォーラム 2018」で男女共同参画社会の実現を目指すメッセージ性を持ち、来場者参加型で学びや気づきを得られる企画

※特定の宗教や政治活動に関するもの、営利目的であるもの、その他「ゆう・あいフォーラム」主催者が不適当であると認めるものは除きます。

募集企画数 10企画程度（要申し込み）
その他 ワークショップについて

のプレゼンテーション（説明発表会）を7月下旬に実施しますので、応募したグループ・団体・事業所は必ず出席してください（詳細は後日連絡します）。▶会場および会場備品費用は主催者で負担しますが、その他の実施費用は応募者の負担になります。▶ワークショップ開催場所、時間帯を調整する場合がありますので、ご了承ください。

申し込み ① 6月15日（金）＜必着＞までに、所定の応募用紙に必要事項を記入の上、郵送、FAX、電子メールまたは持参で、次へTEL 621-8501（住所不要）ゆう・あいフォーラム 2018 企画運営委員会事務局（市役所 5階人権啓発課内）TEL25-5075、FAX22-6372 電子メール

jinken-keihatsu@city.kameoka.lg.jp

（人権啓発課）

社交ダンス体験会参加者募集

とき 6月9日から6月30日までの毎週土曜日（全4回）午後7時30分～午後9時

ところ 亀岡市総合福祉センター
内容 未経験の人や初心者を対象にした体験会です（1回のみ参加も可、ワルツ、ブルース、ジルバなど）。

定員 20人（男女各10人先着順）
参加費 無料

申し込み ① 5月10日（木）から社交ダンスサークル「もみの木会」担当：瀬戸 TEL23-6823 土佐 TEL23-4331

（市民力推進課）

平和推進事業 「第2回 “ヒロシマ” に学ぶ平和の旅」 参加者を募集

世界連邦・非核平和都市宣言を掲げる亀岡市では、平和への思いを次代へつなぐとともに、広く意識の啓発を図ることを目的に、市内中学生を対象とした広島への平和学習の旅を次のとおり実施します。

実施内容 ① “ヒロシマ” に学ぶ平和の旅（広島での平和学習）② 旅の事前学習・説明会（参加決定者への事前説明）

実施日時 ① 8月22日（水）午前7時ごろ～7時ごろ（予定）② 7月30日（月）午後2時～3時30分

実施場所 ① 広島市内 ② 亀岡市役所 1階市民ホール

旅の主なスケジュール（予定） 午前7時ごろ JR 亀岡駅集合・出発⇒（JR）⇒ 京都駅 ⇒（新幹線）⇒ 広島駅 ⇒（路面電車）⇒ 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館（被爆体験講話）⇒ 昼食 ⇒ 広島平和記念資料館ほか見学⇒（路面電車）⇒ 広島駅 ⇒（行きと同じ）⇒ 午後7時ごろ JR 亀岡駅到着・解散

参加対象者 市内在住中学生（市外中学校へ通う生徒も含む）

募集人数 25人（各校2～3人、応募多数の場合は抽選）

参加負担金 ＜交通費、昼食代など＞ 無料

（京都・亀岡ふるさと力向上寄附金を活用し、公費負担します）

※参加者には、後日、感想文（原稿用紙1～2枚程度）を提出してもらいます。

※事業の中で撮影した写真、映像を平和関連事業などに使用します。

応募方法 5月31日（木）までに市内中学校の生徒については、各学校配布の「募集チラシ兼参加申込書」に必要事項を記入の上、担任の先生にお渡しください。その他の市内中学生については、任意の様式に（学校名、学年、氏名〔ふりがな〕、保護者氏名〔ふりがな〕、住所、連絡先）を記載の上、持参、FAX、または電子メールにて、次のあて先に提出してください。

☆☆平和の折鶴募集☆☆

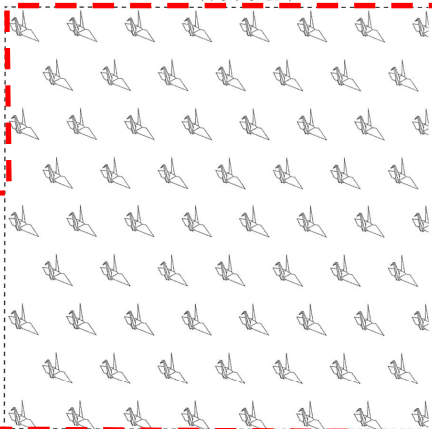
「“ヒロシマ” に学ぶ平和の旅」において広島平和記念公園で中学生が奉納する折鶴を募集します。平和への願いを込めた折鶴で皆さんも事業に参加してみませんか。右側の枠囲みの部分を切り取っていただき、折鶴を作成し、7月20日までに、次のあて先までお届けください（他の紙でも可、ただし、7.5cm×7.5cm使用）。

あて先 ① TEL 621-8501（住所不要）亀岡市秘書広報課秘書係
TEL25-5001、FAX25-0600

※平和の折鶴は、市役所1階市民情報コーナーに設置の折鶴受付BOXでも受け付けます。（秘書広報課）



（キトリセン）



亀岡市の広報紙・ホームページへの広告掲載を募集しています！！

